

# 「つながり」の維持と新たな「つながり」を支援する地域コミュニティづくり

～安全・安心して暮らし続けられる地域コミュニティづくり～

- ・被災者が安心して住める住まいの確保、既存のコミュニティを大切にしながら新たなコミュニティづくり
- ・分野にとらわれない共生型地域コミュニティづくり
- ・「避難所」「仮設住宅」「自己避難」など居場所に関わらず、つながりの継続と必要な支援を受けられる仕組みづくり

2011.4.24

東北関東大震災・共同支援ネットワーク

特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）

池田 昌弘

# 被災地の現状

## ■コミュニティ崩壊の負の連鎖

A: 第1次避難所	➡ 「避難所への移動」、「避難所閉鎖等による2次避難」による、住んでいた地域の関係性の喪失
B: 第2次避難所	➡ 地域外移転による仕事場や学校などとの遮断
C: 仮設住宅	➡ 抽選入居による孤立化の助長
D: 復興の見通しが立たない	➡ 住んでいた地域へ帰る動機の喪失

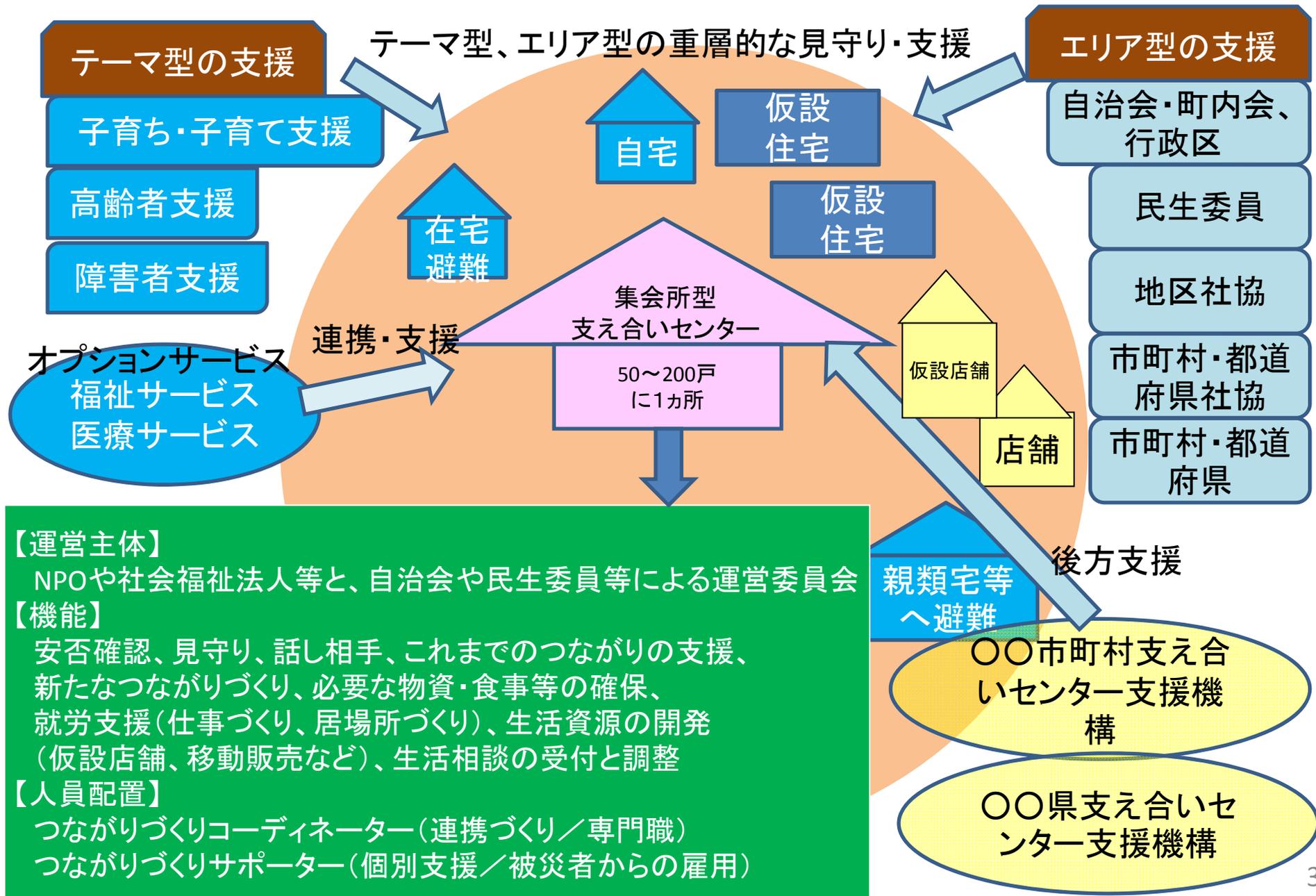
## ■地域内格差、分断による関係の悪化

・避難所内・避難所と在宅避難の格差などにより、地域内での関係が悪化。同じ地域内においても経験の分かち合えないため、「孤立」だけでなく、「いじめ・差別」の課題が出始めている。



**コミュニティの維持・コミュニティづくりが重要**

# 集会所型支え合いセンターのイメージ



# 集会所型「支え合いセンター」のモデル

前提：A・B：避難期段階での「支え合い活動」

実践事例：

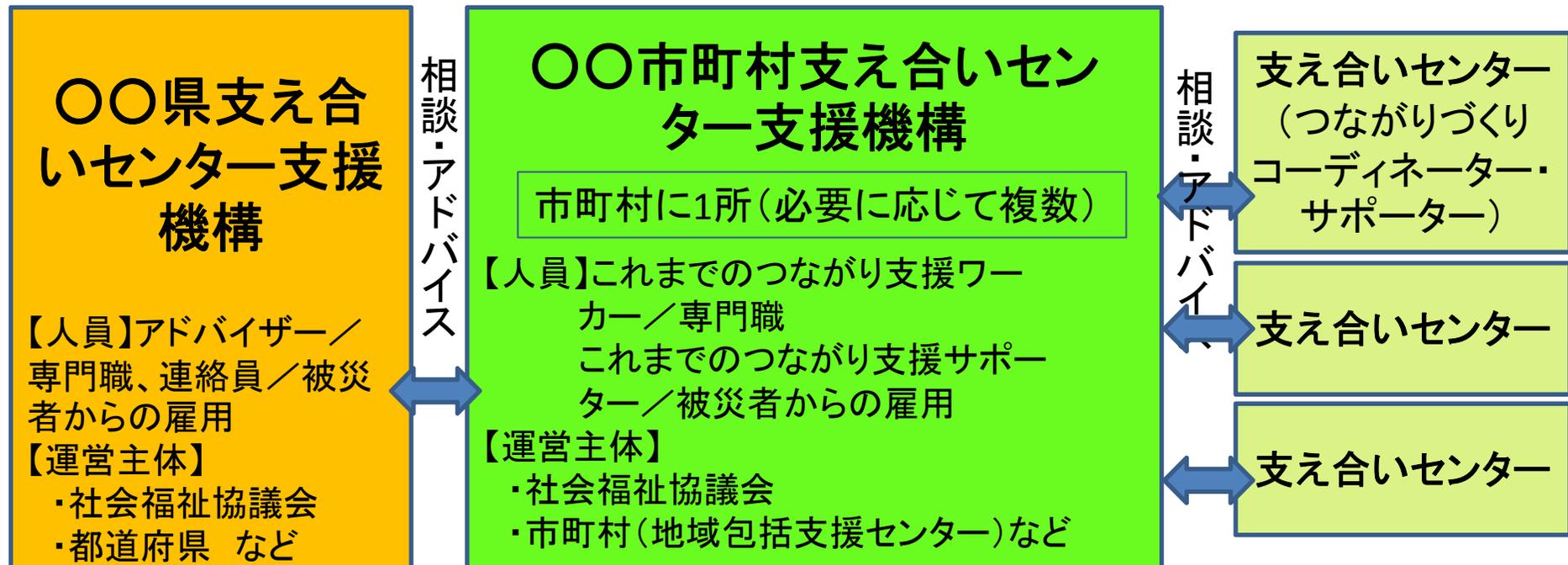
○ひなたぼっこ（仙台市青葉区国見小学校区）

被災に伴う一時避難場所、見守り・安否確認、配食、お米・おむつの宅配、買い物代行、お風呂ツアーのほか、沿岸部からの避難者支援など、80人を支援

○石巻市桃生公民館檜崎分館

隣接した桃生小学校体育館「福祉避難所」を対象とした集いの場、洗濯機・仮設風呂の貸し出し

# 「支え合いセンター」の支援の仕組み



## 【市町村支え合いセンター支援機構の役割】

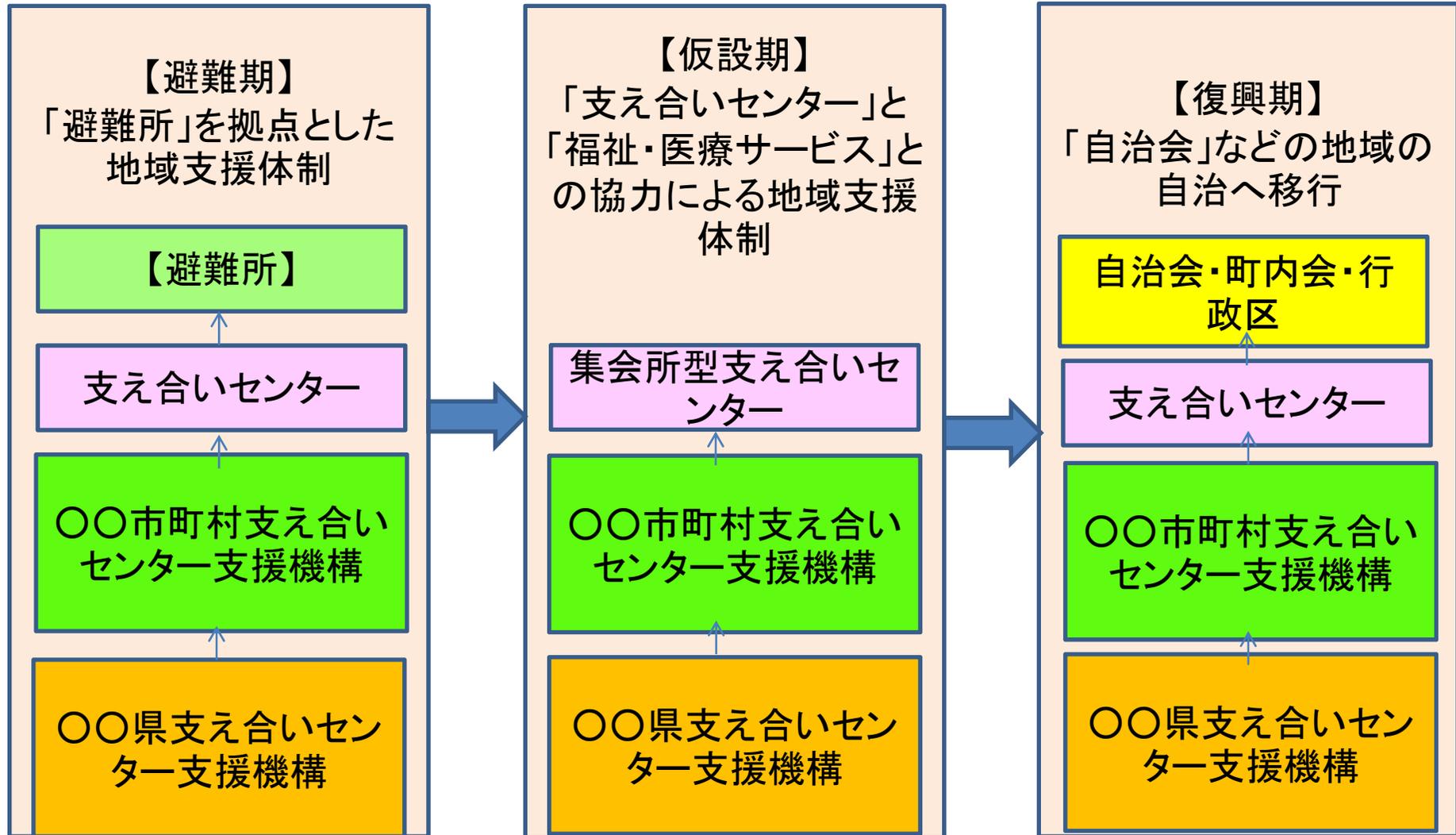
### ■支え合いセンターの後方支援

・運営に関する相談・助言、ニーズ・課題の集約、物資・支援の調整、情報提供、市町村行政との連絡・調整、県支え合いセンター支援機構との連絡・調整、地域の社会資源・福祉サービスとの調整

### ■これまでのつながり支援

・自治会・町内会・行政区、民生委員・児童委員、保健師との協働により、避難所から仮設住宅に移る時、仮設住宅を出るときなどの人の把握・調整、元の集落ごとに集まる場づくり、情報提供などを行う。

# 「支え合いセンター」は恒久的に必要



# 復興のイメージ

復興のイメージ	地域	地域の状況	仮設期の支援のイメージ
①被災地で復興	【都市型仮設住宅】 石巻市 気仙沼市 亘理町 山元町	○震災により広いエリアで壊滅的な被害を受けたが、近隣地域からのサービス提供が見込める地域	元の被災地でのまちづくり・仕事づくり中心。
②被災地で復興 ＋ 仮設タウンで復興	【漁村型仮設住宅】 南三陸町 女川町 石巻市(雄勝,牡鹿,北上)	○震災により広いエリアで壊滅的な被害を受けた地域で、中心市街地や福祉的機能が消失している地域	【仮設タウン】恒常的な住宅・町の機能 ＋ 【元の被災地】まちづくり・仕事づくり
③仮設タウンのみで復興		○被災地での復興が困難な地域	【元々のコミュニティの維持】 【新しいコミュニティづくり】 ※仮設地域の元々のコミュニティとの融合
④市町村外へ移住		○被災地での復興、市町村内での仮設タウンの建設が困難な地域。	【新しい地域になじむ支援】 【経済的な支援、情報提供等】